



福岡県

B U Z E N C I T Y

# 豊前市



新緑の求菩提山

## 修験道文化が根付く 癒しの里

福岡県の東南端に位置する豊前市。南には修験道の遺跡で知られる求菩提山、天然記念物「ツクシヤクナゲ」が群生する犬ヶ岳をひかえ、そこに源を発する岩岳川を中心に豊前平野が広がり、北は豊饒の海、豊前海が広がっています。

修験道文化の影響を色濃く残す豊前神楽の神秘的な舞や、修験道の遺跡の中での「森林セラピー<sup>®</sup>」があなたを癒しの世界に誘います。

寄稿：豊前市



## 修験道の霊山―求菩提山

求菩提山は標高782mの円錐形をした美しい山です。その山容から古来、神々の住む山として人々の信仰を集めてきました。そして、平安時代の終わりごろ(十二世紀中頃)頼厳（ゆゑ）という天台僧により、この地に修験道がもたらされることとなりました。

頼厳は求菩提山護国寺を中心に山の整備を進め、やがて「一山五百坊」と称された豊前修験道の聖地を作り上げます。

しかし、明治政府の修験道禁止令や神仏分離の方針により山伏(修験者)は山を下りることとなり、今は無住の山となりました。また、山内には当時を彷彿とさせる多くの遺構を見ることができます。



## 古の修験道での癒し体験

求菩提山の国玉神社中宮から鬼の石段を登り、上宮を通り、五窟、禊場へと続く修験のルートは四季折々に自然と歴史との見事な調和を見せます。

平成二十五年三月には、この修験のルートが「森林セラピー」<sup>®</sup>（森林の持つ力「森林浴」の癒し効果を科学的に解明し、森の力で心と体を健康にしようとする試み）の基地認定を受けました。

山伏たちがかつて千日行などの荒行を行った、修験道の霊山、求菩提山の中で、五

感で森林を感じ、心と体をリフレッシュしてはいかがでしょうか。



1. 求菩提国玉神社中宮 2. 東の大鳥居 3. 色付く求菩提の紅葉 4. 求菩提山中での森林セラピー



## 神々の舞―豊前神楽

豊前神楽(国指定重要無形民俗文化財)は福岡県三十四団体、大分県五団体、豊前市内では岩屋神楽講、山内神楽講、黒土神楽講、二毛門神楽講、大村神楽講、中村神楽保存会の六団体により伝承されています。その起源は古く、中世の頃には成立していたと考えられますが、文献などでの内容が確認できるのは江戸時代以降です。演目の構成は清めの舞を中心とした「式神楽」と出雲神話を題材とした「奉納神楽」に大きく区分されます。

「式神楽」の壱番神楽、花神楽、手房神楽、



湯立神楽の様子

弓正護神楽は神楽本来の優雅な舞です。

一方、「奉納神楽」は出雲神話に基づく駄仙(御先)神楽、大蛇退治や神迎神楽をはじめ、剣神楽、盆神楽などの見るものを楽しませる演目が数多くあります。

その中でも圧巻は湯立神楽です。10mにも及ぶ斎鉦と呼ばれる柱に登る鬼は群衆を惹きつけ、最後に行われる火渡りは豊前神楽が修験道の影響を色濃く受けていることを物語っています。

「豊前神楽」は五穀豊穡を祈願し、九月から十二月を中心に市内五十ヶ所余で奉納されます。



豊前神楽



秋晴れの豊前海



## 豊饒の海―豊前海

「求菩提山の森の栄養が流れ込み、良質な植物プランクトンが豊富な豊前海。春はコウイカ、初夏にはコンヨウダイ、盛夏には鱧、秋はサワラやエビ、冬は豊前本ガニや豊前海一粒かきなどの魚介が水揚げされています。

平成二十八年六月には「うみてらす豊前」が誕生し、豊築漁協直営の「うのしま豊築丸」では四季折々の豊前海の恵みを漁師料理として味わえます。また、一階の「四季旬海」では港から水揚げされたばかりの新鮮な魚介を対面販売で購入できます。



うみてらす豊前



豊前海の恵み(豊前本ガニ)



豊前海の恵み(豊前海一粒かき)



合河ゆず祭り



豊前棚田ゆず



## 肥沃な土壌―里山の恵み

豊前市の中山間地域には特徴的な棚田の景色が広がっています。この景色は重要な文化的景観「求菩提の農村景観」に選定されています。

求菩提山、犬ヶ岳山系の山々から流れ出る清流がこの棚田に注がれ、豊富な植物性プランクトンが土を豊かにし、中山間特有の寒暖差のある気候が「棚田米」や「豊前棚田ゆず」といった里山の恵みを育みます。

毎年十一月にはこの里山の恵みに感謝する収穫祭「合河ゆず祭り」が開催されます。



求菩提の農村景観